

都市計画マスタープラン策定に向けた区民懇談会の実施結果

① 実施概要

開催日	平成30年11月24日(土)午後2時00分から
開催場所	台東区役所10階 1002会議室
来場者数	55名

② パネルディスカッションにおける主な質疑

番号	質問(来場者)	回答の要旨(コーディネーター・パネリスト)
1	<ul style="list-style-type: none"> 都市マスとは現状を改善するものなのか、10年、20年、50年、100年先を見据えたものなのか、台東区はこれからどうすればいいかが少し分かりにくかった。先生の発言も複数の分野にまたがりばらばらであった。上野公園に人が増えることは大反対である。いい公園を壊してしまったと感じている。公園施設を民間に任せることも反対で、長続きしないであろう。谷中についても古いものを守るのはいいが、この先何年持つかは疑問である。100年先を見据えて谷中のまちをどうすればいいかについてのプランがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市マスは20年先を見据えて策定するものである。100年先はなかなかイメージしにくく、イメージできるところで具体的に考えるのがマスタープランである。 公園や街路樹などの維持管理費が大幅に削減されており、それを賄うために民活やむなしのところがある。また、街区レベルの公園ではリニューアル事例が複数あり台東区でも同じようなことが期待できる。公園をコミュニティの核、資産として捉えてほしい。 都市マスは20年先の大きな方向性を描くものであり、策定後の修正も必要である。それらの具体化については、地域で住民や大学、企業などが参画して考えていくことになる。目標実現のためには、新しい政策ツールも考える必要がある。 都市マスをもとに、詳細なプランを地区の人が考えるのが基本である。谷中地域についても、生活や雰囲気、歴史、文化など様々な価値がある。耐震などの更新も進めつつ、生活スタイルなどの価値も継承できるような建て替えの方法を考えようとしている。変えるか変えないかの二者択一の問題ではない。
2	<ul style="list-style-type: none"> 野澤先生の講演、特に後半の内容が素晴らしかった。まちづくりに関わっているが、手段を目的化しているのが残念ながら今までは多かった。パネルディスカッションは策定からはじまるこれからのまちづくりということで、具体的にどうするかについて教えてほしい。パートナーシップ、協働もどのように進めていくか。区民のリードは難しい。行政側がどのようにリードして組織づくりをするか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域によって事情が異なる。既に地域で自主的な活動がある地域もある。台東区では、一律的に行政が組織をつくるのは現実的な話ではない。ただし、今後行政が仕掛けつつ、区民が自主的に前向きになる方法を考えなければならない。 担い手がしっかりしている地域では、行政が声かけして、地域の人が入り、新たな居住者も加わる体制になるといい。成功体験が重要である。 海外諸国のように毎年都市マスのレビューをして、この1年間何ができたか進捗を管理する必要がある。

番号	質問（来場者）	回答の要旨（コーディネーター・パネリスト）
3	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場で話があったのでそれを組み合わせた区民の役割を考えさせられた。不忍池は都心の中では貴重な水辺であるが、周辺に超高層マンションが建っていて、その良さを損なっている。訪れた人も期待外れで帰ってしまい、再訪しない恐れがある。浅草はその後外から人を呼ぶ努力をして改善したが、数十年前の廃れた浅草と同じ状況であった。上野も施設がたくさんあるから安心してると、同じようなことが起こる恐れがある。不忍池も今後高さ制限、誘導などを検討してほしい。隣接する文京区には絶対高さ制限が設けられており、区境の地域でやっていることが違う問題がある。文京区がやっているよいことは台東区も取り入れてはどうか。不忍池は開放系の場所でいろんなところから場所を楽しまなければいけないのに、壁みたいな超高層マンションが建ってしまった。谷中の場合も空が広いところが地域の良さであるが、東京都と同じ高さ制限しかかけないと、次第に台東区の良さは失われてしまう。資源がたくさんあるのにそれをつなぐところで超高層ビルが目に入るともったいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な区民の意見が表現され、何がふさわしいかを議論するプロセスが重要である。今の不忍池は不忍通りなどによってまちと切り離されている部分が多く、もったいないと感じる。超高層マンションのみならず、足元の店がないことも影響しているだろう。いろんな形でまちと池を紡ぎなおすことが重要で、上野は副都心上野まちづくり協議会が頑張っているの、よいアイデアが生まれてくるとよい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 副都心まちづくり協議会がかなり前から活動している。我々のまちは我々がつくっていくという意識のもと、未来の主演となる若手も参画して20年後、30年後を語り、学識の意見も参考にしながら検討している最中である。都市マスの策定をきっかけに地域の皆さんが自ら立ち上がり、都市マスに縛られず、自分たちに必要なものは何か、自分たちはどうしていきたいのかについて活発に議論し、いいまちづくりにつなげてほしい。 	